

5. 地域福祉課

地域福祉課長 坂元淑子

1. 重点目標について

①生きる喜びが感じられる生活の実現

利用者の特性や意思に応じた日中活動の充実を図った年であった。働くことに挑戦した利用者、2つの事業所を利用することによって生活の場から外へ出ることに挑戦した利用者。法人内に限られてはいたが、これらの新しい試みは利用者の生きる喜びにつながっていた。

グループホーム「いこいの家」は、安全や衛生面で安心した生活が確保できなくなってきたので、閉鎖の方向で利用者の将来の生活を考える支援を始めた。4名の内2名は長年の希望であった一人暮らしを念頭に準備を進めていった。5月からアパート見学を行い、家族との話し合いを経て、3月には念願の一人暮らしへつなげることができた。

近年、重要視されている利用者の意思決定支援については、地域福祉課職員会で研修を行った。今回は講義中心であったため、具体的にどう支援に結び付けていくかが今後の課題である。

○意思決定支援研修

月	テーマ
4月	「どんなに重い障がいがある人も“意思”がある」…原点
5月	「意思決定のプロセスに本人が関与していくことが極めて大切」
6月	「一人で判断するのではなく、チームで決めていく」…決定の透明性
7月	「意思が形成されていく過程の支援が極めて重要である」…情報提供と経験や体の機会の提供
8月	7月のテーマの応用:具体的に利用者を想定して考えてみる
9月	「意思をどう汲み取るか」 ①すべては「相談」するところから始まる
10月	職員会なし
11月	「意思をどう汲み取るか」 ②表出行動の適切な言語化
12月	「意思をどう汲み取るか」 ③問われているのは支援者の意思受信能力
1月	「意思をどう汲み取るか」 ④ストーリーとしての人生から読み解く意思の所在
2月	「意思をどう汲み取るか」 ⑤意思の存在の確信と応答への確信
3月	まとめ

②地域連携の強化

ふれあいによる「第1回くにとみ春風コンサート」、麦わらぼうし立案の「みんなの学校」上映会、つむぎの就労先開拓等、各事業所で地域に対する取り組みが行われた。大きな行事については地域貢献事業ともなり、社会福祉法人エデンの園を知ってもらいたい機会となっている。今後、事業所単位の行事で、地域とより密接な関係を築いていけるよう考えていく必要がある。

地域貢献事業に関しては、東諸地域福祉コーディネーター連絡会の主催でるんるん食堂(コミュニティー食堂)が2回(国富町農村環境改善センター…8月、竹田地区公民館…12月)開かれ、地域福祉コーディネ

ーターが参加すると共に、8月には法人として栄養士を派遣した。また、消毒用の次亜塩素酸水の提供(8月、12月)も行った。

③ 1. 新しいグループホーム

国の補助金を受けて建設するグループホームについては、準備委員会を立ち上げて開所までの準備を進めていった。地域のニーズに対応しての外部からの入居者受け入れ、男女共同生活、緊急時にも対応できる短期入所併設など、新しい試みをも踏まえてこれから利用者支援の充実を図っていかねばならない。そのこともあって、新グループホーム開設に合わせて、離れた三名地区と竹田地区は、それぞれに事業所を設けることとした。

4月	
5月	28日:新グループホームの打ち合わせと設計者との顔合わせ
6月	1日:造成 13日:設計者との打ち合わせ
7月	7日:GHの説明、見学会 11日:竹田地区住民への建設のお知らせ 23日:新グループホーム準備委員会議(準備委員会立ち上げ) 30日:新グループホーム準備委員会議(入居者・職員募集)
8月	2日:新グループホーム準備委員会議(応募から決定までの流れ) 9日:新グループホーム準備委員会議(入居者募集について) 16日:入居者受付開始 入居者応募後の面談～9月27日 24日:新グループホーム準備委員会議(応募状況、ホーム名の公募) 28日:補助金決定 31日:起工式
9月	1日:着工 14日:入居者募集締め切り 20日:新グループホーム準備委員会議(入居者の選考) 26日:現地打ち合わせ会
10月	9日:現地打ち合わせ会
11月	17日:新グループホーム名「ほのか」公表 19日:新グループホーム準備委員会議(書類作成の分担、職員配置案と募集) 28日:新グループホーム準備委員会議(短期入所の各料金)
12月	6日:新グループホーム準備委員会議(家賃) 14日:新グループホーム準備委員会議(アセスメント調査、購入物品) 18日:現地打ち合わせ会 20日:県への事前届け出 27日:新グループホーム準備委員会議(日中活動の確認、職員研修)

1月	22日:新グループホーム準備委員会議(職員配置、購入物品) 31日:現地打ち合わせ会
2月	1日:新グループホーム準備委員会議(契約) 15日:施主検査 16日:契約等の締結 19日:消防検査 20日:引き渡し 21日~23日:内覧会
3月	1日:新事業所のスタートと入居

2. 就労継続支援B型

平成 29 年度より準備を進めていた事業所を、4月に綾町で立ちあげた。清掃、農作業、部品組み立て、DIYの4チームでスタートし、試行錯誤しながらの取り組みで、定員割れという課題は残ったものの、目標工賃を達成した。開始当初の、就労に関する利用者の可能性を活かしたいという思いと、効率を上げての工賃達成とに矛盾を感じることもあり、今後の課題でもある。つむぎでは、利用者・職員共にユニフォームを着用しているが、働くことへの意識が高まり、周囲への認知にも役立った。ただ、法人での初めての就労系の事業所に対して、他職員の理解を深めるための研修等が必要と考える。

3. 放課後等デイサービス

麦わらぼうしがスタートして約2年半が過ぎた。事業所のない綾町の方からの利用希望があり、平成 30 年度は対象児童を綾小学校まで広げた。高岡と高校生の調査を行っていないが、国富町と綾町のサービス利用実態は下記の表のとおりである。

・特別支援学級在籍の児童数とサービス利用児数 ()は麦わらぼうし利用児

		国富町		綾町	
		小学生	中学生	小学生	中学生
1年生	サービスを利用している児童	3(3)	0	2(1)	0
	対象児童数	3	1	4	3
2年生	サービスを利用している児童	1(1)	0	0	0
	対象児童数	5	5	1	2
3年生	サービスを利用している児童	3(1)	1	1(1)	0
	対象児童数	3	5	3	2
4年生	サービスを利用している児童	3		1	
	対象児童数	3		2	
5年生	サービスを利用している児童	2(1)		0	
	対象児童数	6		1	
6年生	サービスを利用している児童	1		1	
	対象児童数	3		2	

・特別支援学級の在籍ではない麦わらぼうしの利用児数 (綾町は利用なし)

	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生
国富町	1名	2名	0名	3名	2名	0名

特別支援学級の児童でも全員がサービスを使っているとは限らない。また、特別支援学級に属さない児童でも療育の必要性からサービスを使っている児童が数名いる。

中学生は利用者が少ないが、サービス利用の必要性はないか考える余地がある。

○権利擁護・虐待防止

権利擁護については各事業所とも毎月研修を行い、意識付けに努めているが、年度末にグループホームで身体的虐待が起こった。普段、一人で複数の利用者支援に当たる職員の、困難事例についての悩みが相談・解決できていない結果であった。改善策の中に、定期的面談と関係職員による困難事例に対するマニュアル作成を挙げた。

○事故・ヒヤリハット報告

それまで事故報告とヒヤリハット報告がタイトルのみ異なり全く同じ様式であったため、ヒヤリハットの報告作成に時間がかかり、報告が上がらない月も多かった。そこで、様式を簡略化し、記入者、日時、場所、詳細のみの記述(事業所の実態に合わせ、多少の違いはある)で事業所内の回覧とし、誰でも書けるようにした。そのため以前より件数が上がるようになった。

ただ、事業所によってはなかなか上がらない所もあるので、提出の意義等、基本的な研修が必要だ。新年度は委員会組織も充実するので、報告を上げることと改善の徹底に期待したい。

○仕事の見直し

働き方改革が叫ばれる現代、働きやすい職場を目指して仕事の見直しを行った事業所もある。

●タイムスタディー

目的	職員 2 名減の状態の現場の把握・職員の今後の動き方の確認
現状	「記録」、「送迎」、「その他(行事の準備)」に多くの時間を要している
改善点	<ul style="list-style-type: none"> ・記録システムの簡略化 ・送迎やケース記録の応援(サービス管理責任者、看護師、PTが入る) ・パート職員によるリハビリ記録や連絡帳の記入

●休憩時間

目的	45 分間の確保
現状	・土曜日と学校休業日の昼食は児童と一緒に摂り、残りの時間を休憩としていた。
改善点	・児童につく職員と休憩を取る職員とに分けた。

●記録

目的	記録時間の確保
現状	・土曜日と学校休業日は児童支援に取られ、記録の時間が確保されていなかった。
改善点	・夕方の自由時間に一人当たり15分位、3、4名が順に抜けて記録を行った。

目的	業務のスリム化
現状	・ケース記録、サービス提供記録の内容が似通っていた。 ・サービス提供記録の内容が個別支援計画に基づいていないことが多かった。
改善点	・サービス提供記録を重視し、日々の記録の内容の統一化を図った。 ・紙面上から一部PC上で管理するようになり、作業効率を上げた。

目的	記録の省力化
現状	・記録に時間がかかり、記録場所も限られていた。
改善点	・IT化を図り、記録時間の短縮を図った。施設外での記録が可能となった。

●リーダー業務

目的	時間を確保して仕事を処理する
現状	・土曜日と学校休業日は残ってリーダー業務(送迎表の作成、日誌等の記録)を行っていた。
改善点	・業務をリーダーとサブリーダーで分け、リーダーは現場で活動につき、サブリーダーは午前の活動を抜けて業務を行った。

○人材育成

職員間の人間関係、健康上の問題等で、3名の職員が中途退職をした。その他にも、人間関係がうまくいかない例は時々見られた。利用者中心に仕事をするを全員で考えていかなければならないと考える。また、コミュニケーション不足とならないような配慮を役職者や担当責任者が積極的に行っていく必要性も感じた。

5-1. エデンの園ふれあい

サービス管理責任者 日高武敏

1. サービス実績 ○生活介護(20名)

・月別利用実績 一月平均・・・17.53

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
開所日数	22	23	22	23	23	22	23	22	23	23	20	23
延べ人数	360	382	386	415	442	360	401	400	386	394	383	402
1日平均	16.36	16.61	17.55	18.04	19.22	16.36	17.43	18.18	16.78	17.13	19.15	17.48

2. 平成30年度重点目標

①利用者一人一人の障害特性を理解し、個別支援計画に基づいて様々な体験や経験を通して、利用者が安心して楽しく活動に参加できるように支援します。

障害者特性に応じた支援が出来なかった。その原因として特性や支援方法などの情報の共有が十分に図られていない事が挙げられる。その為、活動種目にしっかりとした目的がなく、ただ単に時間を過ごしているだけのように思えることもあった。今後は軽作業の在り方を再考すべきだと感じる。良い点では、四季を感じながらの、活動(ウォーキングや選択外出など)が挙げられる。

②利用者の心身の状態を常に把握し、気持ちよく安心して通所できるように配慮します。また、話しやすい明るい雰囲気作りに努め、職員と利用者が信頼しあえる家庭的な環境づくりに努めます。

意識的に言葉遣いに気を付けたり、利用者の声を傾聴するように心がけたが、時折、利用者に対する口調が強くなる職員もいた為、注意は行ったが家庭的な環境を十分に作り上げることは出来なかった。家庭的な環境(ゆったりとした雰囲気)を作り上げる為には、より職員間で情報の共有を進め、利用者のニーズをしっかり汲み取ることが必要だと感じた。

③感染予防として、常に整理整頓を心掛け、館内の消毒を行い清潔保持に努めます。また、運動やリハビリテーションを通して、体力維持に努め、日々のバイタルチェックにより、健康管理を行い、早期に適切な対応が取れるように、「気づき」の意識を高め、生きがいに繋がるよう支援します。

年度初めに、大掛かりな整理整頓を行ったので、清潔感が出て良かった。また、リハビリテーションに関しては、パート職員も関りが多くなって支援量が増加した。その反面、何故そのリハビリが必要かという根幹が不透明な部分があったので、理学療法士が根拠をしっかりと伝えることで、日常生活場面において気をつける点が明確になり、良い支援につながった。看護師、理学療法士が平成30年度から配置されることによって、専門的な意見をその都度聞くことが出来、様々な視点から利用者について考える機会が増えた。また、ホーム職員やご家族との連携は図れていた。

④音楽活動を通して、地域との交流の場を設け、関りの中から地域社会の一員として意識を高め、生きがいに繋がるよう支援します。

サロンを利用した、地域住民との交流を計画していたが、職員数や専門的知識の問題がありまだ実現していない。月、水の音楽活動においても移動や、楽器のセッティングに時間を要し、十分な活動時間を確保できていない。また前年度と違い、利用日にバラつきがあり、みんなで一緒に歌や踊りを覚えることが難しい状態にあった。また、ハートtoハートコンサートに参加できたことは、利用者、職員共に大きな自信にもつながったのではないかと感じる。40周年式典のバンド演奏の際に、ふれあいの利用者だけ立って踊り始めたことは、普段から音楽に親しんでいたことが大きく影響したものと考えられる。また、3月に開催された「第1回くにとみ春風コンサート」では、地域住民、関係者合わせて約160名程の参加があった。ふれあいからはSKBが参加し、存在感を示せたのではないかと感じた。ふれあいの「特色」としていく方針であれば、しっかり専門知識を持った職員配置が不可欠だと感じている。また、前グループフルーツメンバーにおいては、演奏や歌を歌うことは良い刺激となっており、継続することが必要だと感じている。

3. 権利擁護研修

<平成30年度権利擁護研修>

・権利擁護研修日程

月	内容	担当者
4	エコグラム～自分の性格を知る	看護師
5	利用者支援について(支援会議)	生活支援員
6	利用者支援について(支援会議)	生活支援員
7	権利擁護の3層構造について	生活支援員
8	虐待防止のチェックリスト記入	課長補佐
9	職員会中止	
10	未実施	
11	利用者支援について(支援会議)	生活支援員
12	利用者支援の心得(行動規範)の読み合わせ	課長補佐
1	虐待防止・権利擁護研修をうけて	生活支援員
2	虐待防止・権利擁護研修をうけて	課長
3	1月の権利擁護研修をうけて～振り返り	課長補佐

4. 行事報告

行事名	花見(フローランテ)		
日時	5月21日(月)23日(水)	利用者数	5月21日(月)11名、23日(水)11名
行事名	第19回 ハートtoハート チャリティーコンサート		
日時	6月16日(土)	利用者数	15名
行事名	選択外出		
日時	6月13日(木)、18日(月)、 21日(木)26日(火)	利用者数	13日(10名)、18日(2名) 21日(6名)、26日(12名)
行事名	サマーフェスタ		
日時	8月10日(金)	利用者数	18名
行事名	スポーツレクリエーション		
日時	9月29日(土)	利用者数	20名
行事名	クリスマス会		
日時	12月22日(土)	利用者数	19名
行事名	第1回 くにとみ春風コンサート		
日時	3月2日(土)	利用者数	20名

5. 防災

月	訓練種別	想定	目的	状況
7	避難 消火 搬出 救出	地震 火災	避難誘導體制の確立。 あらゆる災害が発生した 時の利用者と職員の動き の確認。	地震発生のお知らせを受け、職員が安全保持の指示を利用者にしっかり出していた。避難後に1階で待機できたことは良かったが、怪我人の確認が疎かになっていた。また、担架の使用方法も曖昧だったので、全職員が使用方法を学ぶ必要があると感じた。実際の大地震の際は、ふれあい袋小路にあるので避難ルートが無くなる可能性があることを共有しておきたい。
2	避難 消火 搬出 救出	地震 火災	避難誘導體制の確立。 あらゆる災害が発生した 時の利用者と職員の動き の確認。	地震発生のお知らせを受け、机の下に隠れたり、頭を保護する行為が見られたが、避難口の確保(窓を開けたり)が出来ていなかった。避難後は、怪我等の有無の確認がしっかり出来ていた。リーダーの指示も大きな声で成されていた。

6. 苦情

申出人	内容	対応
家族A	<p>① ふれあいでの活動状況について、保護者まで見えてこない。休職している職員がいると聞いたが、音楽活動はどうなっているのか。</p> <p>② 今年度に入り、送迎時間に変更されているが、何の連絡も無かった。</p> <p>③ 「ふれあい便り」が送られてこない。以前は楽しみにしていた。</p>	<p>対応については、母親の話を傾聴した上で、活動状況報告や事前連絡が不十分であったことを謝罪した。また、現在のふれあいでの活動内容について説明するとともに、活動の見学にも来ていただいかまわらないこと等をお伝えしたところ、「ぜひ、参観させて下さい。」とのことであった。ふれあい便りについても、毎月送付させていただくことをお伝えするとともに、今後もグループホーム職員と連携し、支援をさせていただくことを話し、納得していただいた。</p> <p>支援員より報告を受け、サービス管理責任者より母親に謝罪を行った。内容は支援より報告を受けたものと同様のものだった。また、今後の支援に活かしていくために、苦情として挙げさせて頂きたいことを伝え、了承を得た。</p>

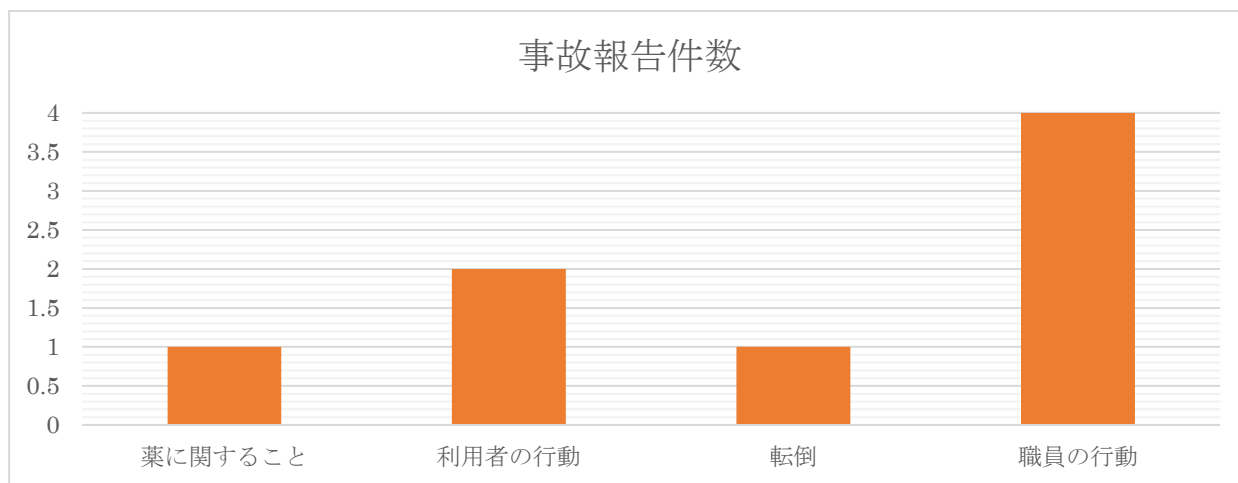
7. 事故報告・ヒヤリハット報告

(1) 事故報告(総計 8)

内容	H30 4月	5月	6月	7月	8月	9月	10 月	11 月	12 月	H31 1月	2月	3月	計
薬に関すること	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
利用者の行動	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	2
転倒	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
職員の行動	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	2	4

※薬に関すること・・・投薬忘れ ※利用者の行動・・・無断外出等 ※転倒・・・転倒・怪我

※職員の行動・・・施錠忘れ・機器の取り扱いミス・公用車の破損



(2)ヒヤリハット報告(総計34)

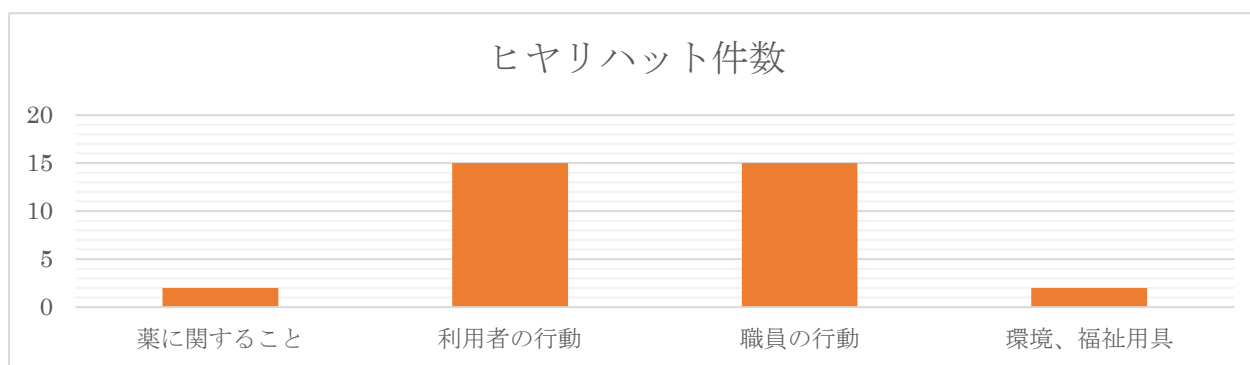
内容	H30 4月	5月	6月	7月	8月	9月	10 月	11 月	12 月	H31 1月	2月	3月	計
薬に関すること	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2
利用者の行動	0	0	2	0	0	3	0	4	1	0	1	4	15
職員の行動	0	0	0	0	0	2	1	3	1	5	3	0	15
環境、福祉用具	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	2

※薬に関すること・・・投薬を間違えそうになる。薬のセット忘れなど

※利用者の行動・・・転倒しそうになる。利用者間のトラブルなど

※職員の行動・・・機器の取り扱いミスなど

※環境、福祉用具・・・洗面所のすのこが不安定など



8. ボランティア

No	期日	行事名	個人・団体名	人数	内容
1	平成 31 年 9 月 29 日 (土)	スポーツレクリエーション	本庄高校	7 名	利用者支援
2			職員家族	1 名	利用者支援
3			利用者	1 名	会場設営

9. 実習生

No	期間	学校名・施設名	人数
1	平成 31 年 5 月 10 日 (木)、5 月 11 日 (金)	近畿大学九州短期大学	2 名
2	平成 31 年 6 月 22 日 (金)	宮崎学園短期大学	2 名
3	平成 31 年 6 月 25 日 (月)	宮崎学園短期大学	3 名
4	平成 31 年 7 月 12 日 (木)	木脇中	2 名
5	平成 31 年 8 月 16 日 (木)～平成 31 年 8 月 29 日 (水)	宮崎学園短期大学	2 名
6	平成 31 年 8 月 30 日 (木)～平成 31 年 9 月 12 日 (木)	宮崎学園短期大学	2 名

5-2. グループホーム

サービス管理責任者 町田紀恵

○平成 30 年 4 月～平成 31 年 2 月

○平成 31 年 3 月

ホームみらい	男性 8 名
いこいの家	男性 4 名
のぞみの家	女性 4 名
青い鳥	男性 7 名
	計 23 名

エデンホーム三名	ホームみらい	男性 8 名
	のぞみの家	女性 4 名
エデンホーム森永	青い鳥	男性 7 名
	ほのか	男性 4 名 女性 3 名
		計 26 名

○重点目標について

①健康の維持・感染症の予防

食事前、排せつ後の手洗い、手指消毒の徹底、ホーム内の定期的消毒により感染症の予防を行った。手洗いについては意識も高まりつつあるが、声かけが常に必要だ。インフルエンザや胃腸炎の発症はなかったので感染症の予防はできた。本年度は 1 名の 3 週間に渡る入院治療、1 名の体調不調による約 1 ヶ月の食事制限、1 名の骨折があった。各種健診を行い、再検査の必要な方は通院し対応した。

②運動の推進

休日の余暇時間を中心に、ウォーキングや散策、ルームランナー、自転車漕ぎ、体操、ダンス、腹筋などを行った。運動をすることで気分転換になり、歩行維持ができた。体重増加傾向にある利用者には負荷をかけるまでの運動はできなかった。

③余暇の充実

休日は可能なかぎりドライブや散歩などを行い、平日は個々にあった楽しみ(テレビ、ラジオ、CD、ゲーム、ボール遊び、会話など)を提供した。楽しく参加されている利用者もいたが、一人の時間を楽しんでいる方もいた。休日の余暇時間は職員の勤務や公用車の関係で外出が困難なホームもあり、休日の過ごし方の工夫が課題だ。

12月2日～3日 霧島方面の旅行を実施した。体調不良で2名の利用者が参加できなかったが、参加利用者には笑顔が多く見られ、旅行を楽しむことができた。

④新ホーム開所準備

3月の開所に向け、利用者募集、調査、建物内装、備品などの打ち合わせを定期的に行い、準備を進めた。3月1日開所となりグループホームより3名、地域から4名、計7名の方が入居され生活を始めた。今までのホームと違い、男性4名女性3名の男女混合のホームで、ショートステイ1名の受け入れもできるホームとなっている。ホーム名は募集し「ほのか」となった。ほのかの開設に伴いグループホームはエデンホーム三名(ホームみらい、のぞみの家)、エデンホーム森永(青い鳥、ほのか)の2事業所で運営すること

になった。また、いこいの家を2月で閉鎖した。2名の利用者が別のグループホームへ、2名の利用者が一人暮らしを始めた。

1. グループホーム会議

グループホーム職員会は開催日を7日(週末の場合は6日か8日)に設定し実施した。利用者の状況、権利擁護研修(職員持ち回り)、連絡事項、課題など充分話し合うことができた。

今年度はホーム毎に世話人会を6月と10月～11月に実施し、支援マニュアル確認や防災マニュアル確認などを行った。

・権利擁護研修

月	職員名	内容
4月	日高	要求についてどこまで受け入れるか?
5月	海野	権利擁護について
6月	塩満	知的障がいとは
7月	長田	H・Tさんのクリスマスツリー
8月	町田	虐待防止チェックリスト
9月	森崎	障がい者を取り巻く環境
10月	町田	利用者支援の心得
11月	福島	権利擁護研修
12月	保利	しっかりと利用者さんを見つめていますか?
1月	塩満	利用者支援で大切なこと
2月	坂元	通報義務 虐待行為の類型
3月	町田	深刻な虐待に共通していること。

2. 食事提供

利用者の健康状態に合わせ、また時には希望を取り入れながら、それぞれの世話人が工夫を凝らして調理に当たった。栄養のバランスを考慮し、季節の物、バラエティに富んだメニューを提供するように心がけた。殆どの利用者が「おいしい。」と言って完食されていた。今年度は一部のホームで宅食サービスの利用を取り入れた。4月から8月までまごころ食材サービス、9月よりワタミの宅食弁当、12月よりワタミ食材配達コースをとり提供した。宅食サービスを利用することにより、買物や調理で使っていた時間を他の支援に力を入れることが出来た反面、食材料費が高くなった。利用者の健康面(糖尿病)や体重増加、高齢化など献立の充実、バランスが課題である。

3. 外出介護

利用者に多くの体験をしていただくことを考えインターネット等で情報を収集したり、向陽の里から情報を得たりした。同じ所を希望される方においては、情報を伝えアドバイスした。12月より、移動時間(歩行)の制限やバスの乗降が難しい2名が、ケアセンターこんぱすの同行援護(送迎車付き)の利用を始めた。今後、バス移動が困難な場合や利用時間等を考慮し、送迎車付きの外出介護の検討も必要だと思われる。

	行先や内容
買物	イオンモール宮崎 イオン南宮崎 カリーノ 都城ミエル ヤマダ電気 都城イオン 延岡イオン 日向イオン
観光	青島神社 こどもの国 フローランテ宮崎 城山公園 酒泉の杜 のじりこびあ フローランテ宮崎 フェニックス動物園 道の駅フェニックス 飫肥城 関乃尾の滝 種田梨園 清武レイクサイドファーム サンメッセ日南
施設	エースレーン ラウンド1 宮崎科学技術館 大淀川学習館 いのちの水キリスト教会 霧島キリスト教会 宮崎駅 宮崎空港 宮崎視覚障害者センター 明星視覚支援学校 コロッケ倶楽部 博物館 アートセンター 宮崎神宮 一ツ葉稲荷神社
行事	(コンサート等) 宮崎市民文化ホール メディキット県民センター 清武文化会館 西都市民ホール 都城総合文化ホール 宮崎市民プラザ (スポーツ大会・観戦等) 宮崎県総合運動公園 生目の杜運動公園 国富町体育館 宮崎市総合体育館 宮崎県体育館 (祭り) 町民際 向陽際 えれこっちゃ祭り 祭り宮崎
その他	健診(国富健康保健センター)

4. 苦情解決

申し出人	内容	対応
一般患者	病院のトイレが汚れていた。	・グループホームの利用者ではなかった。 トイレ利用後の確認を必ず確認する。
利用者家族	通院や病状について連絡がなかった。	・健康状態について家族と連絡をとる。 ・再検査については、職員が引率し家族が希望すれば同行を依頼する。 ・検診再検査の通院後は速やかに報告をする。
歯科医師	治療が中断している	・ふれあいにある口腔内データーを各ホーム提供し、通院計画をたて通院する。
病院	処方箋依頼は薬局ではない。	・処方箋は確実に病院に依頼する。
後見人	職員の電話で家族が混乱した。	・謝罪し再度説明する。

5. 危機管理

事故報告 12 件(怪我 1 件、骨折 1 件、転倒 1 件 薬に関すること 6 件 無断外出 1 件 送迎忘れ 1 件、落し物 1 件)

ヒヤリハットが 3 件(施錠忘れ、画鋏がおちていた、薬セットミス)

実際の日常生活ではヒヤリとしたことでも報告書作成までに至らないものがあり、事故防止の為に報告書を出すようにしていく。利用者のトラブルや気分の高揚では、早目の適切な対処や利用者の特性の理解などが必要である。

6. 防災

防災訓練は火災や地震を想定して実施した。ホームみらい(7 月、3 月)青い鳥(6 月、11 月)は消防法に基づき年 2 回、防災訓練計画書を消防署に提出し訓練を実施した。世話人会で防災マニュアルについて確認を行った。今年度は台風でいこいの家が 4 回エデンの園に避難した。特に台風 18 号では三名地区のホームが停電し、防災関係品や、備蓄の対応に追われ準備不足を感じ、マニュアルの見直しが必要だと実感した。

三名地区防災訓練に参加し、土砂災害対策について講義を受けた。

ホーム名	実施回数	内容
ホームみらい	13回	火災 5回 地震 7回 その他 1回
いこいの家	11回	火災 2回 地震 9回
のぞみの家	11回	火災 4回 地震 5回 総合 1回
青い鳥	8回	火災 4回 地震 3回 その他 1回
ほのか	1回	火災 1回

●年間行事報告

月	行 事
5	13日(日)第 17 回宮崎県障がい者スポーツ大会(13名参加)
8	26日(日)きれいなまちづくりボランティアのつどい(2名参加)
9	22日(日)第 55 回宮崎市障がい者スポーツ大会(15名参加)
10	20日(土)第 21 回ふれあいレクリエーション(19名参加)
11	25日(日)三名地区防災訓練(6名参加)
12	2日(日)～3日(月)霧島旅行(21名参加)

5-3. エデンの園相談支援事業所

相談支援専門員 長友真佐子

○重点目標について

利用者等が望む場所、望む地域での生活を継続的に送って頂けるよう、サービス提供事業所への理解と協力を求め、ご本人等にも問題解決能力(エンパワメント)を向上させ、持てる力を発揮できるよう、本人中心の相談支援を行うよう心掛けた。利用者が生活しやすい「地域作り」を行うまでは至らなかったが、成人に関しては、望まぬ施設入所はなく、より良い環境を提供するためにグループホーム等を検討したり、居住場所の変更をしたりすることはあった。児童に関しては、虐待や親の疾病等による養育力低下などにより、一時的に「児童相談所での一時保護」等を利用、検討することはあったが、親子の離別等はなかった。

「本人中心の支援」を行うに当たって、より良い支援を提供できるよう、事業所内で事例検討を行うなど、他の相談支援専門員とも相談、協議する場を設けた。また、どの利用者も一つとして同じケースは無い為、私たち相談支援専門員もスキルアップに努める必要があった為、宮崎市障がい福祉課の理解を得て、宮崎市自立支援協議会に参加し、基幹相談支援センター等が実施する勉強会や事例検討会、ファミリーーター養成講座なども受講した。今年度は、2名の相談支援専門員が、相談支援専門員現任研修に参加すると共に、新しく相談支援専門員として配属になった職員に関しては、必要に応じて、経験のある相談支援専門員が、一緒に利用者宅やサービス提供事業所に同行し、アドバイスなどを行うことでも、スキルアップを図った。

○指定特定相談支援事業・指定障害児相談支援に関する事

1、基本相談に関する事

今年度は、国富町役場や綾町役場からの依頼、利用者が利用されているサービス提供事業所からの依頼、利用者間で当事業所の情報を得るなどし、地域で生活をされている方からの相談を受ける機会が増えた印象がある。「困った時に相談できる場所が欲しい」「障がい福祉サービスの利用について詳しく知りたい」など、福祉に関する様々な問題について、障がい者、障がい児の保護者、介護者などからの相談に応じ、必要な情報の提供及び助言を行なうなど、細かな支援を行って行けるよう努力した。

2、契約に関する事

基本相談の内容等により、福祉サービス利用の希望または必要性がある場合、契約書、重要事項説明書の説明をし、利用契約を結んだ。

3、サービス等利用支援(サービス等利用計画の作成)・障がい児支援利用援助(障がい児支援利用援助計画の作成)に関する事

各市町村が実施する障がい認定区分調査やサービス利用希望に係る調査に同席、自宅等の訪問をし、アセスメントを行った。不必要な情報等には留意しつつも、必要な情報は理解を頂きながら聞き取りを行い、情報を収集し、アセスメントと「利用者及びその家族の生活に対する意向や希望」をもとに、サービス等利用計画案または障害児支援利用計画案(以下、「計画案」という。)を作成した。通常、支給決定され、サービス担当者会議を経て、サービスの利用を開始するが、今年度は、緊急性がある場合、各市町村との協議の上、サービスの内容や支給量など口頭での確認をし、計画案の同意を得た段階で、サービス担当者会

議の開催と本計画への同意や受給者証の発行を待たずに、サービス提供事業所の理解や協力も得てサービスの利用を開始した事例も数件あった。

4、継続サービス利用支援・継続障がい児支援利用援助(モニタリング)に関すること

サービス利用開始後、支給決定をもとに定期的にモニタリングを行った。モニタリング時には、自宅等で利用者等から話を聞くだけでなく、できるだけサービス提供事業所に訪問し、実際に利用時の様子を見る等した。また、モニタリング時期でない時でも、必要に応じて利用者、関係機関と密に連絡を取り、困りごとはないか、変化はないかなどを聞き取り、連絡調整、ケア会議の開催などを通して連携を強化していけるよう努力した。その際、必要に応じて、計画の見直し、緊急・一時的な支給量の調整等を行った。

5、職員会議に関する事

毎月の定期的な開催は出来なかったが、連絡事項、協議事項等がある場合には、その都度開催した。また、利用者支援等で問題等が起こった場合にも、その都度、他の相談支援専門員に連絡・相談する機会を設け、事例検討を行ったり、支援に関わる留意事項の周知をしたり、随時会議を開催した。

運営委員会、地域福祉課職員会に関しては、現状や連絡事項等を記載した資料を作成し、報告や相談をし、より良い支援が出来る体制等を検討した。

6、苦情等の受付、解決に関すること

大きな問題はなかった。しかし、より良い支援に繋げる為に、検討事項がある場合には、その都度話し合いをし、解決策、防止策を検討した。

7、危機管理に関すること

職員の連絡網を整備すると共に、より迅速に対応するため、携帯電話のLINEを利用した緊急連絡網を整備し、職員の休日等でも、互いに連絡調整できる体制を取った。事業所の携帯電話の整備が人数分は整っていないため、訪問先等で相談支援専門員の個人の携帯電話で利用者等に連絡を取ることも多く、利用者やサービス提供事業所等から営業時間外でも個人の携帯電話に連絡がある事があったが、必要に応じて対応した。

8、マニュアルに関すること

マニュアルを整備し、業務が円滑に行えるようにした。しかし、各市町村で対応が違う場合や事例によって違う場合があり、その都度各市町村に相談、確認する事も多くあった。

9、請求事務に関すること

実績表を取りまとめて翌月の月初めに提出した。各市町村の支給決定の遅れ、各市町村への提出書類の準備等の遅れもあり、当該月に請求を上げる事が出来ないケースがあった。

10、役割分担に関すること

事業所運営に関する役割分担を行い、担当職員を中心に、協力しながら業務を遂行した。

○みやざき安心セーフティネット事業に関する事

今年度は、コミュニティソーシャルワーカーの研修に当法人から3名参加し、内2名を宮崎県社会福祉協議会に登録した。(登録者数3名)相談依頼などがなく、活動はなかった。

○今年度実績

新規契約者:53名(内 児童28名)

契約終了者:4名(内 児童2名) ※相談支援事業所変更、介護保険への移行による

成人														
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
計画	22	3	5	6	5	8	6	6	4	5	3	15	88	
継続支援	30	40	31	36	30	21	11	15	21	21	19	25	300	
合計	52	43	36	42	35	29	17	21	25	26	22	40	388	
児童														
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
計画	2	5	3	5	6	3	7	3	5	2	5	8	54	
継続支援	2	23	8	4	13	13	5	13	9	11	3	10	114	
合計	4	28	11	9	19	16	12	16	14	13	8	18	168	
合計														
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
計画	24	8	8	11	11	11	13	9	9	7	8	23	142	
継続支援	32	63	39	40	43	34	16	28	30	32	22	35	414	
合計	56	71	47	51	54	45	29	37	39	39	30	58	556	

5-4. 放課後等デイサービス麦わらぼうし

児童発達支援管理責任者 寺田 法子

○重点目標について

① 利用児の意思決定を尊重し、満足度に繋がります。

- ・個別支援計画や活動計画を児童と一緒に考え、作成します。

個別支援計画を作成する際、児童の希望を確認しながら内容を簡単に説明した。苦手なことに取り組むことや頑張ることが書かれた計画に偏っていることに気づき、年度後半以降は、ケア会議で支援の成功例や児童の強みについて話し合い、計画に盛り込むようにした。活動について、児童から多く聞かれた意見が、自由時間が欲しいということであった。集団活動を 20 分程度に設定して残りを自由時間にしたり、時間を守ることをめあてに、活動の準備や片付け等をスムーズに行えたら自由時間を設ける事等を伝えたりして自主性や自発性の芽生えを大切にしたい。

② 地域との交流活動を行います。

- ・9月8日(土) 「みんなの学校」上映会を法人事務局と計画・実施した。広報活動について、法人家族会、学校、行政、保育園、幼稚園、社会福祉協議会、民生委員、スーパー、バス待合所、宮崎県記者クラブ等にパンフレットを配布した。映画は午前と午後で 2 回上映し、来場者数の延べ人数が 174 名となった。上映会終了後のアンケートでは、様々な上映会やセミナー等の企画・要望に関することや、もっと広く確実に情報発信をしてほしいといった意見があり、今後も地域住民へ向けた芸術活動や講演会などを継続していきたいと感じた。

③ 対象地域を綾町まで広がります。

- ・パンフレットを学校、保育園、幼稚園に配布しPR活動を強化します。

綾小学校の児童 2 名の受け入れを開始した。8 月には平成 31 年度の新規予約の問い合わせが入るようになり、卒業する児童がいないことから定員に達すると思いき、積極的なPR活動は実施していない。しかし、実際は利用のキャンセルが多く定員を割っていた。1 月を過ぎたあたりから、役場福祉課や相談支援事業所から、新一年児の受け入れについて動きが本格化し、実際の利用日数が少なくなった児童の曜日調整等を行った。

④ 充実した活動の為にマニュアルの見直しを行います。

- ・毎月マニュアルに関する会議を行います。

担当するマニュアルを振り分け、5 月より会議を実施した。改善や変更が必要な箇所を話し合い、訂正したものをマニュアルファイルに保管するという流れに沿って実施した。しかし、完成したマニュアルや手順に沿って確実に実行しているかどうかの確認ができていなかった。また、事故発生時にはマニュアルを見なければその場で対応することが困難であるなど、マニュアルの活用方法が今後の課題である。すぐに確認できる場所に掲示したり、マニュアルの手順を確認しながら業務を遂行しているかを確認したりする必要があると感じた。

○活動総括

集団遊び・グループ活動を行う上で、対象児童を小学生に限定し、発達段階や経験値の違いや差に考慮しているが、集団の規模が拡大し、低学年児の利用が増えたため、ルールの理解度や運動能力を配慮し、グループを分けて実施した。今後も、活動のねらいや目的によって、グループ分けは必要になると感じる。平成 29 年度末に児童の要望でクラブ活動を作りたいという意見から、運動クラブ・制作クラブに分かれて毎週 1 回実施した。しかし、クラブについては、日々の活動との違いや目的が分からないと言った職員の意見も聞かれ、今後の実施については検討する必要がある。

子どもが自分達で遊びやルールを決定したいという気持ちも強くなった。活動のマンネリ化を指摘した意見も聞かれたため、活動計画と実施にあたっては、事前の準備を整えておく必要がある。また、本来、子ども達が当たり前に行えるはずの自由な放課後活動の機会を奪うことなく、たとえ事業所の活動であっても、地域で子ども達が過ごしているような自由度の高い時間や雰囲気も必要だと感じる。子どもに必要な支援を提供する時間と、子どもの主体性や自己決定の芽生えを育める活動をバランス良く取り入れいくことが課題である。

○週間活動報告

活動曜日	月曜日
活動内容	散歩・ストレッチ
活動実績	<ul style="list-style-type: none"> ・散歩やウォーキングは、児童の意欲や達成感に繋がるよう、スタンプラリーにするなどして目的を持たせた。結果、活動が充実して行えた。 ・ストレッチはゆったりとした動きになりやすいため、模倣に苦手さがある児童や動き回りたい児童にとっては、集中して取り組むことが難しいと感じた。

活動曜日	火曜日
活動内容	缶けり・影踏み・かくれんぼ・鬼ごっこ・ミッションゲーム
活動実績	<ul style="list-style-type: none"> ・繰り返し行うことで、少しずつ遊び方を学んでいく様子が見られた。また、下級生の児童に対し、上級生がルールを配慮する姿もあり、それによって下級生も活動に参加することができる場面が見られた。新しい遊びには、ミッションゲーム、まいっかじゃんけんなどを取り入れた。「タッチをされたり、負けたりしても文句を言わない」「勝っても自慢しない」など、ソーシャルスキルの目的を設けることで、他児への意識や、関わり方を学ぶことが出来たと思う。

活動曜日	水曜日
活動内容	習字(第 1・3 水曜 16:15~16:45) ・感覚統合
活動実績	<ul style="list-style-type: none"> ・書道では、児童が書きたい文字の手本を理事長に書いてもらい、意欲に繋がった。事業所前に掲示板が設置され、5 月より作品を 4 枚ずつ展示するようになったことも良かった。また、自分で準備から片付けまでが行えるよう手順書を作成した。また、習字をしたがらない児童については、理事長と相談した。 ・感覚統合遊具遊びでは、トランポリン、バランスボール、ゴムとび、スクーターボード、輪投げ等を行った。

活動曜日	木曜日
活動内容	創作活動 ・ジェスチャーゲーム・だるまさんがころんだ 等
活動実績	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の困り感・不安感・イラつき感が見られる場面では、言葉掛けをしたり、一緒に活動へ参加したりすることで、「やってみたら楽しかった」「負けたけど楽しかった」など、初めの一歩を支えることで、遊びの幅が広がり、経験を増やすことに繋がった。 ・創作にはトイレットペーパーの芯や、段ボール、弁当のプラスチック蓋など、身近な廃材を使用したことで、「これは〇〇に使いそう」「これを使ったらできるかも」等と自発的な発想で物作りに取り組むことができた。

活動曜日	金曜日
活動内容	戸外遊び(森永公園)・音楽療法(第1・第3金曜)
活動実績	<ul style="list-style-type: none"> ・戸外遊びは、必ず一つの遊びをみんなで行うことや、その後に自由時間を設けたことで、週末の疲れを発散し、友達との遊びを楽しむことができた。 ・グループを分けた事により、セラピストが個々へ声を掛けながらセッションが出来るようになった。

活動曜日	土曜日
活動内容	園外活動 ・おやつ作り(第3土曜) ・触感遊び
活動実績	<ul style="list-style-type: none"> ・公共の場であるため、遊具に小さな子どもが遊んでいる時は、遊具で走らないなどのルールやマナーを学ぶことができた。 ・おやつ作りは言葉による説明だけでなく、手順書等を使って視覚的に提示したことで、児童の自主性に繋がった。

○行事報告

行事名	家族親睦会		
実施日時	6月24日(土)14:40～17:15	場所	麦わらぼうし
参加者	参加利用児12名 家族11名		

行事名	魚釣り体験		
実施日時	平成30年7月24日(火)	場所	サンビーチ海釣り公園
参加者	職員5名 児童11名		

行事名	デイキャンプ		
実施日時	8月25日(土)	場所	法華嶽公園キャンプ場
参加者	参加利用児12名 家族名6名 職員8名 ボランティア1名		

行事名	陶芸教室		
実施日時	8月29日(水)	場 所	麦わらぼうし
参加者	参加利用児13名 職員6名		

行事名	ハロウィン		
実施日時	10月31日(水) 15:00~17:00	場 所	麦わらぼうし周辺
参加者	利用児13名 職員7名		

行事名	トレッキング		
実施日時	11月10日(土)	場 所	平和台公園
参加者	利用児5名 職員5名		

行事名	麦わらぼうしクリスマス会		
実施日時	12月25日(火) 13:00~16:00	場 所	麦わらぼうし
参加者	利用児12名 職員11名		

行事名	正月遊びを楽しもう会		
実施日時	平成31年1月12日(土)	場 所	麦わらぼうし
参加者	職員8名 児童5名 近隣児童 近隣の方々		

行事名	家族親睦会		
実施日時	2月16日(土) 17:30~19:00	場 所	麦わらぼうし
参加者	利用児8名 家族(兄妹児含む)9名 職員9名(施設長含む)		

行事名	春の遠足		
実施日時	平成31年3月28日(木)	場 所	県体育館・プラネタリウム
参加者	職員8名 児童10名		

○防災訓練等実施状況

日時	訓練・種目	内 容	目 的	実施状況
4月22日	防火教育	送迎時に災害等が発生した場合	送迎時の緊急マニュアルの確立	送迎時のマニュアルを作成。職員に周知を行った。
5月23日	防火教育	火災についてのDVD鑑賞	災害に対し児童の理解を深める	児童から「本当に起こったら怖いと思った」「ライターで遊ばない」などの意見を聞く事が出来た。

6月27日	総合防災	IH コンロから近くの布巾に引火を想定しての訓練	通報、消火、避難	児童も訓練に参加し、通報、避難等をしっかり行うことが出来た。
7月17日	防火教育	心肺蘇生	職員を対象に心肺蘇生法及び AED の使用方法を学ぶ	看護師、理学療法士からの指導を受け、心肺蘇生用人形、AED を実際に使い、使用方法を学んだ。
8月8日	地震教育	地震	起震車体験	起震車を呼び、実際に児童に体験してもらった。地震の揺れを実際に体感し、児童も地震を意識したようだった。
9月28日	防火教育	風水害への対応	風水害への職員の対応を協議する	風水害時は備蓄として懐中電灯、ラジオ等が必要な事、備蓄に対してはどこで保管するかなどの課題が上がった。
10月24日	地震教育	地震についての DVD 鑑賞	災害に対する児童の理解を深める。	20分と少し長めの DVD だったが、比較的児童も集中して見る事が出来た。「枕元のタンスが倒れたのが怖かった」などの感想も児童から聞かれた。
12月13日	避難訓練	日向灘沖地震発生を想定した訓練	地震からの避難	地震で、玄関側、ホール側とそれぞれ分断される想定だったが、地震の音を聞くと、すぐに障害物（壁が崩れる想定）を児童がどかし、ホールに避難する様子が見られた為、想定通りでの訓練は行えなかった。
1月29日	消火	消火訓練	消火器の使用方法を学ぶ(職員)	消防職員を事業所に呼び、講義、実施訓練を行った。
2月22日	防火教育	マニュアル掲示場所の検討	マニュアルについての職員への周知	マニュアルの視覚化について、再度どこに掲示するか意見を職員と話し合った。
3月20日	まとめ	年間反省	年間の防災訓練を振り返る	風水害への訓練が少なかった。森永小学校に協力を依頼し、水害想定での避難訓練などの意見をもらった。

○ヒヤリハット、事故、苦情報告

【事故報告】33件

事故報告は、平成 29 年度よりも報告の件数が増えた。事故報告の内容で件数が多かったのは、その他(職員に関する事)についてであった。具体的な内容は、施錠や物の整理・管理などの業務

ミスや確認不足であった。確認表を作成する等して再発防止を行った。また、報告にはあげていないが、児童が気分を損ねて物を投げたり、職員に対して暴力をふるったりしたことで物が破損したり、職員が軽い怪我をしたりしたことが数回あった。それも含め、報告をあげていく必要がある。

種 類	件 数
転倒・転落等による怪我	2 件
利用者間のトラブルによる怪我	2 件
紛失	4 件
破損	3 件
送迎に関すること	5 件
無断外出	3 件
その他(児童に関すること)	2 件
その他(職員に関すること)	11 件
車両事故	1 件
計 33 件	

【ヒヤリハット】 52 件

ヒヤリハット報告が少ないことが課題であったため、ヒヤリハットの意義を職員会議で確認し、様式を簡素化したところ、報告が多くあがるようになった。しかし、定期的に注意喚起しなければ、報告が上がらなくなってしまうことや、報告を上げる人が偏ったり、同じ様な内容の報告が繰り返しがったりすることなどが課題となった。

【苦 情】

種 類	件 数
職員の態度	1 件
サービスの内容について	1 件
その他	1 件
計 3 件	

5-5. 就労継続支援 B 型事業所つむぎ

サービス管理責任者 徳原 潤

○事業実績報告

1. 利用者契約推移

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
男性	9	11	13	14	14	14	14	14	13	13	13	13
女性	5	6	6	6	6	7	8	8	8	8	8	10
合計	14	17	19	20	20	21	22	23	21	21	21	23

平成 30 年 4 月、男性 9 名、女性 5 名（エデン園の入所利用者 6 名、エデンの園グループホーム利用者 6 名、在宅の利用者 2 名）で開所する。5 月、国富町の男性 1 名、宮崎市の男性 1 名、綾町の女性 1 名の在宅者契約、6 月、宮崎市の在宅とホーム生活の男性の 2 名利用契約、7 月、宮崎市の在宅の男性 1 名利用契約となる。9 月、エデンの園女性入所利用者 1 名契約、11 月、国富町の在宅の女性 1 名利用契約、12 月宮崎市の在宅の男性 1 名利用契約終了、3 月エデン園のグループホーム利用者 2 名利用契約、3 月 31 日現在、利用契約数 23 名（在宅者 5 名、エデンの園入所利用者 1 名、エデンの園グループホーム利用者 2 名、ホーム 1 名増）となり、開所当初より 9 名増となる。

2. 利用稼働率推移

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
開所日数	22	23	22	23	23	22	23	22	23	23	20	23	269
延べ人数	253	292	313	330	341	337	348	333	326	309	275	322	3779
稼働率	57.5	63	71.1	71.7	74.1	76.5	75.6	75.6	70.8	67.1	68.5	70	70.125

4 月開所当初は、定員 20 名に対して、契約者 14 名、うち B 型利用専従利用者（4 名）、生活介護との併用利用者（10 名）で開所したことで稼働率は上がらなかった。

5 月より B 型利用専従者契約が増えたことから稼働率が徐々に上がっていったが、12 月に入り、熱発者、インフルエンザ等の体調不良者や入院が出たことで、稼働率が上がらなかった。

3. 障がい支援区分状況 (H31.3.31 現在)

区分	障害支援区分							計	平均区分
	なし	1	2	3	4	5	6		
男性	3			4	4	2		13	2.92
女性	1			3	1	4	1	10	3.9
合計	4			7	5	6	1	23	3.41

4 月開所当初は、男性障がい支援区分平均 3.5、女性障がい支援区分平均 3.8 であったが、3 月末現在、男性は支援区分のなしの利用者が増えたことで障がい平均区分が 2.92 と下がった。女性の障がい支援区分については、支援区分 5 と 6 の利用者が増えたことで 3.9 と上がった。

4. 出身別状況(H31.3.31 現在)

区分	宮崎市	国富町	綾町	小林市	高原町	新座市	美郷町	延岡市	西都市	計
男性	5	2	2	2	1	1				13
女性	1	4	1	1			1	1	1	10
合計	6	6	3	3	1	1	1	1	1	23

利用者契約は確実に増えてきたが、増えた利用者の出身別状況を見ると、綾町、国富町、宮崎市の利用者が確実に増え、関係機関との連携を密にしていた結果ではないかと考える。引き続き、関係機関との連携を密に行っていく。

5. 年齢別状況(H31.3.31 現在)

区分	20未満	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	計	平均年齢
男性		1	3	3	4	1	1	13	51.6歳
女性	1		1	1	3	3	1	10	53.1歳
合計	1	1	4	4	7	4	2	23	52.3歳

利用者平均年齢は4月開所時より男性+5.3歳 女性-2.9歳となった。全体平均では+1.2歳となった。

6. 活動内容

(1) 就労支援

① 施設外就労

- ・JA 綾関連作業(荒綾農産、育苗センター、選果場、オーガニックファーム)～収穫作業、除草作業等
- ・やさいだ農園(養鶏作業)・瀬野商店(大豆収穫:期間限定)
- ・クリーン事業(青島グランドホテル・やすらぎの杜)

② 委託作業(部品組み立て、塩分別、勝田被服、綾幼稚園、宮崎食研)

(2) 工賃収入(施設外就労)

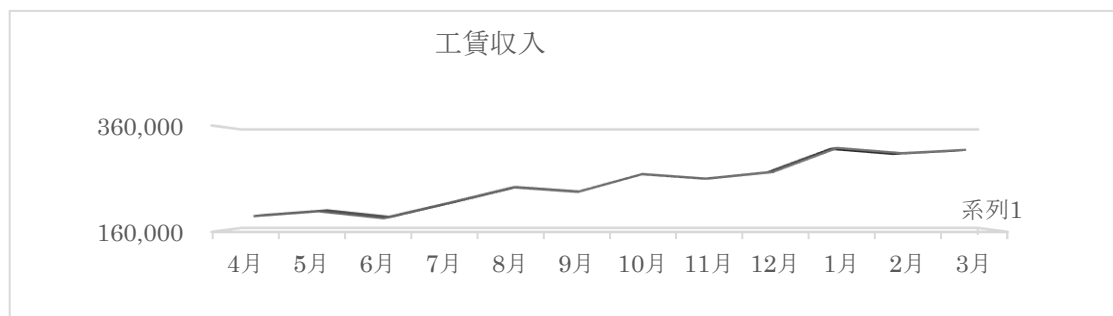
	GH	JA関連	やすらぎの杜	やさいだ	綾園芸	瀬野商店	
4月	54,810	29,700					
5月	72,629	9,750					
6月	80,824	11,400					
7月	81,404	11,850					
8月	86,694	9,300					
9月	69,446	34,800					
10月	71,254	32,550	30,500				
11月	72,994	36,000	69,000	7,720			
12月	55,032	29,100	85,000	7,520			
1月	27,740	57,900	83,000	6,880		3,600	
2月	0	55,500	121,000	7,880			
3月	0	9,750	127,000	9,880	51,250		
合計	672,827	327,600	515,500	39,880	51,250	3,600	1,610,657

(3) 工賃収入(委託作業・コメ販売)

	エデンの園	塩	かつだ	あや幼稚園	部品組み立て	宮崎食研	米販売	
4月	40,000				63,492			
5月	40,000	3,000			72,000			
6月	40,000	5,000			46,943			
7月	40,000	0	600	10,000	69,548			
8月	40,000	0	6,300	10,000	91,450			
9月	40,000	0	3,600	0	87,098			
10月	42,925	0	4,860	0	87,318			
11月	43,510	0	5,070	0	26,183			
12月	43,510	0	0	0	52,980			
1月	44,680	0	4,590	0	63,021		28,000	
2月	45,850	0	1,500	0	71,459	6,250		
3月	41,170				77,935	2,000	2,000	
合計	501,645	8,000	26,520	20,000	809,427	8,250	30,000	1,403,842

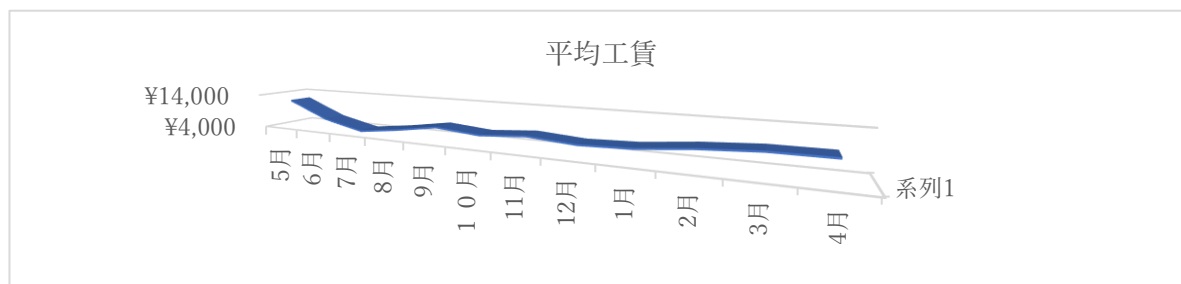
(4) 工賃収入

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
188,002	197,379	184,167	213,402	243,744	234,944	269,407	260,477	273,142	319,411	309,439	315,920



(5) 利用者平均工賃(利用者全員)

5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月
11,985	6,994	4,345	5,860	7,760	6,728	7,698	6,785	7,227	8,593	9,432	9,468



利用者全体平均工賃 7,740 円

7. 行事・レクリエーション

月	行事・レクリエーション
7月7日(土)	ボーリング・外食(宮崎市)
9月1日(土)	バーベキュー会(つむぎ)
12月22日(土)	望年会・クリスマス会(綾川荘)
3月30日(土)	お花見(西都原古墳群)

8. 地域交流

①支援学校実習受け入れ

・実習1

学校名	みなみの風支援学校(清武)
期間	平成30年6月5日～6月15日
実習人数	高等部3年生 2名(男性1名、女性1名)
実習内容	清掃作業(ホテル内の清掃)

・実習2

学校名	中央支援学校(宮崎市)
期間	平成30年11月20日、21日、27日、28日
実習人数	高等部2年生 1名(男性)
実習内容	部品組み立て、農作業

②支援学校施設説明会参加

- ・7月24日 中央支援学校
- ・7月26日 みなみの風支援学校

9. 防災計画

日時	訓練種目	目的	実施状況
H30.9.27	火災想定による避難訓練	作業場所からの避難誘導体制、経路の確立	利用者点呼簿、緊急連絡先等の必要物品の準備、第2避難場所の検討を行う必要があった。(避難訓練完了 3分47秒)
31.3.31	地震想定による避難訓練	作業場所からの避難誘導体制、経路の確立	地震の際の利用者を保護するための道具(ヘルメット等の防災用具)の準備、災害備蓄等の準備、複数の避難経路の検討が必要。(避難訓練完了 6分08秒)

10. 事故報告

事故報告は、車両事故や施設外就労先での利用者さん支援中の報告が多くあった。つむぎでは施設外での活動が多いことから、事故報告の前に、ヒヤリハットの報告がもう少し上がり、検証ができていれば、事前の事故防止につながったのではないかと考える。今後は、どんな細やかなヒヤリハットでも職員間で情報を共有し、事故防止・再発防止に努めていく。

・事故報告 13 件

内 容	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
1. 薬に関すること													
2. 利用者の行動			1			1						1	3
3. 転倒						1							1
4. 職員の行動	1				1	1			1				4
5. 環境・福祉用具													
6. 無断外出	1							1	1	1			4
7. その他								1					1

・ヒヤリハット5件

内 容	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
利用者の行動							2						2
職員の行動		1											1
環境・福祉用具						1							1
その他							1						1

6 地域貢献事業(じょいほっぷ)

4年目となったじょい・ほっぷ。今年度、4月に新1年生5名5月に3年生1名、12月に6年生1名の新規契約があった。新規契約の際には前年度までと同様、じょい・ほっぷの目的と趣旨を説明し、理解を求めた。今年度大幅に児童が増えた。一年生が増えたことで、今まで利用していた児童が、年下の子どもの面倒をみるという縦の関係ができ、成長を見る事ができた。活動については、学校登校時は、宿題後に遊び、長期休暇時は、町内の公園や公共施設へ行き、遊具や全体遊びを取り入れ、帰園後は宿題を行うという流れで行った。今年度は一日の利用平均が約6名である公用車一台に乗れる人数を考えると、現在の利用人数がギリギリではないかと考える。利用希望が集中する水曜日、夏休み等の利用は、一台で乗り切れず、2回に分けて送迎する日もあり送迎の方法を検討する必要性を感じている。じょい・ほっぷが開所した当時の児童が現在も引き続き利用しており、その兄弟児、近所の子どもたちへと口コミで広がったとも言え、地域に根差した貢献活動が少しずつ広がってきていると実感している。前年度の反省の中で、感染症などの為長期間活動閉鎖することに関しては、現段階ではハード面が整わず、閉鎖時は別の事業所と契約をして頂くよう理解を求めている。しかし、今年度は、インフルエンザ感染時にじょい・ほっぷはホームひかりで実施した。(1月18日～3月末)対面キッチンを活用し、活動をしながら(学習の様子をみながら)手作りおやつを楽しむこともできた。

○月別利用実績

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
開所日数	20	21	21	21	21	20	22	21	19	19	20	20
延べ人数	111	126	122	126	123	114	127	121	100	104	91	78
1日平均	5.55	6.00	5.81	6.00	5.86	5.70	5.77	5.76	5.26	5.47	4.55	3.90